

不可能を可能に

岩手県花巻市立矢沢中学校

一年 高橋 昇 聖

僕は野球が大好きです。試合でホームランを打ったとき、ピッチャーで完封勝ちをしたとき、自分のプレーが勝利につながったときはもちろん、チームメイトとの練習や相手チームとのホームラン競争、父との自主練習も楽しくて仕方ありません。

誰もが知っているメジャーリーガーの大谷翔平選手は、二刀流として常に挑戦し、投打ともに結果を出しているスーパースターです。僕だけでなく、野球をしている人だったら誰もが目標にして憧れている選手です。先生に勧められたこともあり、大谷選手のメッセージ集『不可能を可能にする大谷翔平120の思考』を読み、大谷選手の思考、メンタル、向上心に深い感銘を受けました。大谷選手は、高校生のときに高い目標を立てていました。「誰も投げていないボールを投げたい」と考えて、研究したそうです。周りには、無理ではないかと言う人もいたのですが、そう言われて、やる気になると大谷選手は思ったそうです。僕も、バッティングコーチに毎回厳しい指導を受けています。指導されたことがなかなかうまくできなくて、何度もくじけそうになり、泣いた日もありました。でも、絶対にやっつてやるという気持ちが消えることはありませんでした。

これから、中学、高校と、ずっと野球をしたいと思う中で、限界が見えるまでやっつていきたいという思いは、僕も大谷選手と同じです。大谷選手も僕と同じ気持ちで練習していたんだと思うと、嬉しくて、勇気もらいます。

この夏、僕は、野球日本代表アンダー12に選ばれ、台湾での国際試合に出場する機会をいただきました。チャイニーズタイペイ戦で、二打席連続ホームランを打った嬉しさは忘れられませんが、それと同時に、韓国戦での大ピンチを切り抜けた場面が強く心に残っています。6回表でマウンドに立ち、無死二、三塁。自分の中では押さえようと思うあまり、投げ急いでいたと思います。そんなとき、タイムがかり、仁志監督がマウンドに歩いて来ました。「昇聖。落ち着け。ストリートを思いっきり投げろ。」その一言で、僕は気持ちを切り替えることができました。不思議でした。どうしてそうできたのか自分でもよくわかりませんが、あれほど苦しかったのに投げやすくなりました。その後、バッターを三人で押さえ、無失点でピンチを切り抜けました。野球は、バッティングでもピッチングでも、個人の技術が問われるスポーツです。でも、それだけではありません。チームでの信頼や応援、支え合うことがどれほど大切かを感じることができました。

今、僕には大きすぎる夢があります。それを叶えるためには大谷選手のように高い目標とプランを、もう一度しっかりと立て直そうと思います。考えるだけで、とてもわくわくしてきます。大谷選手は、「大きな夢は、正しい努力を続けられ、いつか現実になる。」と話しています。僕も、きついことや厳しいことに耐えて、いつか自分の最高の場面を作りたいです。僕にとつて今きついことは、基礎のトレーニングです。これをさぼってしまうと、野球のいろい

ろなことが衰えるとかわかってるので、どんなに頑張っても手を抜こうとは思いません。その一方で、野球以外のことをまだ考えていない自分がいて、勉強することが苦手だったり、他のこともやらなければならぬと思うのにやらなかったりしています。大谷選手が言う「正しい努力」について考え、野球は頑張れるのに、他のことは手を抜いてしまう自分を変えたいと思いました。僕の夢が実現するまでに、英語も話せるようになっていたいし、マスコミのインタビューにもすぐに丁寧な日本語で答えられるようになっていきたいです。野球の練習は続けたいので、時間をうまく使って他のことにも取り組んでいこうと思います。

「スーパースターは不可能を可能にする」と聞いたことがあります。僕はスーパースターではないけれど、スーパースターでなくても不可能を可能にできると思っています。いつか誰かがやってくれるのを待っているより、自分がやってみようという気持ちをもって僕は野球に取り組んできました。「侍ジャパンアンダー12」に選ばれたことは、スーパースターではない僕が、不可能を可能にした第一歩です。僕は将来、プロ野球選手になって、いつかは海を渡り、アメリカの大リーグで大谷選手のように記録を作りたいです。